

地球環境を守る活動

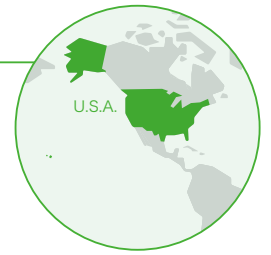
Hondaは、製品の研究開発から生産、購買、輸送、販売、廃棄、
さらにオフィスにいたる企業活動のすべての過程において、
環境保全に全力で取り組んでいます。

社会活動の領域においても、地域社会と自然との共生をテーマに、
地球的視野に立った活動を積極的に展開しています。



Together for Tomorrow





ビッグ・ダービー・クリーク保全活動

ホンダオブアメリカマニュファクチャリング・インコーポレーテッド/Honda of America Manufacturing, Inc.

ザ・ネイチャー・コンサーバンシーと協力して自然豊かな水流地を守る

アメリカ・オハイオ州で、非営利の自然保護団体ザ・ネイチャー・コンサーバンシーと協力し、Hondaは自社の関連施設周辺の水流地の保全活動を行っています。メアリーズビルとイーストリバティにあるホンダオブアメリカマニュファクチャリングの四輪車・二輪車の生産拠点は、州の景観を代表する水流地であり、ザ・ネイチャー・コンサーバンシーが「残された素晴らしい自然環境」のひとつとして保全に取り組むビッグ・ダービー・クリークの源流に隣接しています。

また、ビッグ・ダービー・クリークは、多くのオハイオ州住民が利用する飲料水の水源の一部であるとともに、この清涼な水で多くの植物や動物が育まれています。100種類以上の魚、絶滅の危機に瀕している稀少な38種を含む44種類のイシガイが生息。アメリカ中西部で、最も多様な生態系を保有する水流地のひとつです。しかし、汚染や、人工的な水流変化のため、この源流が誇る豊かな自然は危機に瀕しています。Hondaはザ・ネイチャー・コンサーバンシーに協力し、用地取得、水質管理、調査、教育、環境回復などの環境保全活動を行っています。



環境保護地区の設立協力やスイカズラの除去を実施

湿地と水流地の環境を保全し回復させることは、Hondaの生産拠点で重視している取り組みのひとつです。Hondaは30万ドルをザ・ネイチャー・コンサーバンシーに提供し、800エーカー(約3.2km²)の「ビッグ・ダービー・クリーク環境保護地区」設立のための用地取得に協力しました。2008年には、人々と動植物にとっての水源の重要性を伝えるため、環境保護地区と遊歩道が一般公開されています。さらに、ボランティア活動への参加を促進する社内プログラム「ホンダヒーロー」の一環として、メアリーズビル四輪車工場付近の新

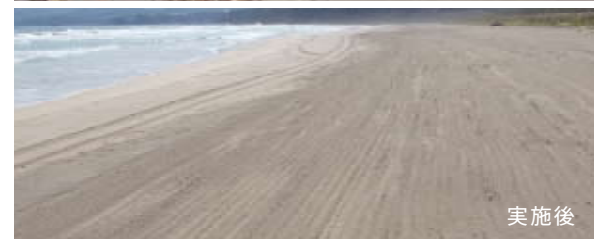
たな通りで、Hondaの従業員は茂り過ぎたスイカズラの撤去作業に参加。ザ・ネイチャー・コンサーバンシーのボランティア・コーディネーターであるバーバラ・ローガン・パタチャルヤさんによると、「スイカズラのように繁殖力の強い植物は、周りの動植物の生息環境にダメージを与える」と言います。2007年10月13日、スイカズラの撤去に従業員9名が参加しましたが、Hondaはこの活動を10年間サポートし続けています。北米にあるHondaの各生産拠点は12,000エーカー(約48.5km²)以上に渡る土地を占めており、環境保全が必要な地域も多数含まれています。Hondaに実りをもたらしてくれる大地。この大地を守ってゆく努力を、Hondaは続けています。



Hondaビーチクリーン活動



実施前



実施後

独自開発のビーチクリーナーで キャラバン隊が砂浜を清掃

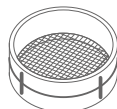
「きれいな砂浜を次世代に残したい」という思いから開発が始まったHondaのビーチクリーナー。試行錯誤を繰り返して独自の技術で完成した牽引式ビーチクリーナーと

四輪バギーを使い、2006年から本格的に「Hondaビーチクリーン活動」が始まりました。従業員やOBのボランティアスタッフで編成されたキャラバン隊が、地域の自治体の要請に基づいて全国の砂浜を回り、2007年度は19ヵ所の砂浜を清掃しました。

また、11月に宮崎県新富町の富田浜で行われたビーチクリーン活動では、地元拠点に置く(株)ホンダロックとの協働で活動が行われ、従業員ボランティア69名が参加。Hondaは、今後も各地域でHondaグループが連携した活動を推進していきます。



熊手の構造を応用した
サンドレーキ



フルイの構造を応用した
サンドスクリーン



木片、網、ロープなど大きなゴミはサンドレーキで取り、吸い殻、ガラス片など小さなゴミはサンドスクリーンで回収



グループ会社の従業員も 積極的に参加

また、2007年度はキャラバン隊の活動を、Hondaのグループ会社との協働で展開することも始めました。2007年10月、静岡県磐田市の福田浅羽海岸では、Honda浜松製作所の従業員ボランティア30名とともに、グループ会社である(株)ショーワの従業員ボランティア20名が参加しました。



Honda全体で連携して 活動をさらに全国へ

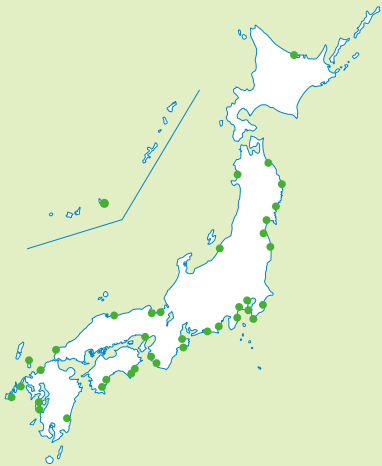
さらに、2007年度は全国9カ所の自治体へ、四輪バギーとビーチクリーナーのセットを貸出しました。これは、地域の自治体が行う海岸清掃活動をより効率的に推進してもらい、1カ所でも多く素足で歩ける砂浜を次世代に残したい、という思いから始めたもので、Hondaは機材の貸出しだけでなく、安全運転講習の実施や指導、機材のメンテナンスなど継続的な支援を行っていきます。

今後も、地域の自治体を中心に、Hondaの事業所やグループ会社が連携した活動を展開し、Hondaならではの海岸清掃活動を全国に広げていきます。

●活動実績

2006年度
ビーチクリーンキャラバン隊の活動実績
19カ所（19回）

2007年度
ビーチクリーンキャラバン隊の活動実績
19カ所（20回）
グループ会社協働 2社
自治体への機材貸出し 9カ所



自治体の 方々の 声

千葉県館山市

「ビーチクリーンの活動を継続して、
地元や行政と一緒に砂浜をきれいにしてほしい」

「正直言って、びっくりしました。ビーチクリーナーを掛け終わったあとは、砂浜が白くなって、そのうえフカフカ。思わず自分でも砂浜に飛び込みたくなるぐらいキレイでした」と語ってくれたのは、Hondaのビーチクリーナーで砂浜の清掃活動を展開している館山市役所の川名さん。「今の活動をずっと継続して、地元や行政と一緒に砂浜をきれいにさせていただけたらと思います」との声もいただきました。



館山市役所 商工観光課
川名茂樹さん

自治体の 方々の 声

和歌山県白浜町

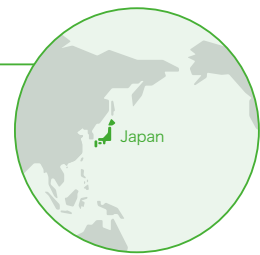
「町の人や観光客の方からいただく、
はげましの言葉がうれしいですね」

和歌山県白浜町で砂浜の清掃を担当している田中さんは、Hondaのビーチクリーナーを使って、「埋まっているゴミまで取っていくので、パウダー状のサラサラした砂になり、すごいなぁという印象でした」と感想を語ってくれました。町の人や観光客の方からの評判もよく、活動中には「ビーチクリーンをしているから、白良浜はキレイなんです。これからも頑張ってください」と声を掛けられることもあり、「それが何よりもうれしいですね」と話していただきました。



白浜町役場 観光課
田中健介さん





国内「水源の森」保全活動

源流にある森に 本来の力をとり戻す活動

私達が使う水は、山から海へと続く川によってもたらされます。源流にある森林は、長い時間をかけて水を蓄え、川の豊かな流れを支えるとともに、きれいな空気をつくったり、地盤を安定させることで災害の発生を防ぐという役割も担っています。Hondaは、この大切な「水源の森」を未来へ引き継いでいくために、全国の事業所で、従業員・OBとその家族のボランティアによる森林保全活動を積極的に行っています。

埼玉県寄居町で 「水源の森」保全活動がスタート

Hondaは、新しい生産工場の建設が予定されている埼玉県寄居町の用度地区にある鐘撞堂山から連なる里山(町有林)で、新たな森林保全活動を始めました。

これは、Hondaと寄居町、埼玉県中央部森林組合、(財)オイスカが協働ですすめるもので、Hondaは資金援助のほか、和光地区や周辺事業所の従業員ボランティアが、植林や下草刈りなどの森林保全活動を行います。

2007年6月の第1回には、従業員とその家族34名のボランティアが参加し、森林組合の指導のもと、谷津山東南の傾斜地に広葉樹の苗木300本を植林。その後、森林保全のレクチャーでは活発な意見交換がなされ、参加した従業員も森林の役割・必要性を再認識しました。

9月の第2回には、従業員やOB、その家族のボランティア24名が参加し、6月に植えた苗木の周りに生い茂った雑草などの下草刈りを行いました。

今後もHondaは全国の事業所周辺にある水源の森8カ所の保全活動を継続的に実施していきます。

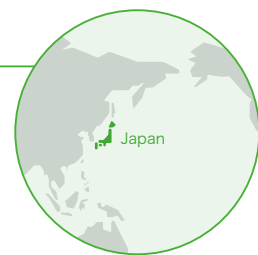


●活動地域



●2007年度活動実績

事業所	開催回数	参加人数
青山	2回	55名
和光	2回	58名
埼玉	3回	160名
鈴鹿	2回	98名
浜松	1回	25名
熊本	3回	169名
栃木	2回	91名
計	15回	656名



「ふるさとの森」づくり

全国にあるHondaの各事業所周辺を、コンクリートの壁で囲んでしまうのではなく、その土地固有の樹木を植えて、自然のままに育てる「ふるさとの森」づくり。本来の生態系を活かした自然を回復させ、維持する、という自然の仕組みに基づいた緑化活動を1976年からすすめています。

地域コミュニケーションを取り入れた浜松製作所の取り組み

浜松製作所では、「ふるさとの森」づくりに地域コミュニケーションの観点を加え、自然とふれあい、親しみながら、環境や自然保護の大切さを体験する場を地域の方々に提供。子ども達が見学・体験できる環境学習エリアを設け、自然環境についての新しい発見や気づきを促し、自主性を培う場にしていきたいと考えています。



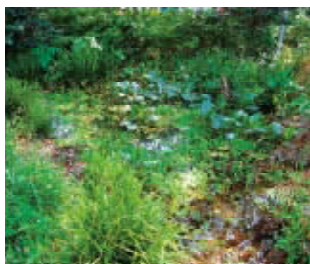
●ゲートエリア

「ふるさとの森」の入口。さまざまな草花や樹木などで、浜松の里を表現しています。



●環境エリア

浜松製作所が行っている廃水処理、臭気対策など、環境対応の考え方や取り組みをパネルで紹介。



●水辺エリア

里山の小川や池をイメージし、水辺にすむ生き物を中心に生態系を整え、ホタルやメダカをはじめ、豊かな水辺の生態系を観察することができます。また、池や小川で遊ぶ体験もできます。



●昆虫エリア

浜松の里山にある雑木林をイメージし、昆虫が多く生息できるように環境を整えています。カブトムシ、クワガタムシ、バッタ、チョウなど、さまざまな昆虫がすむ森や草むらといった里山の生態系を知ることができるエリアです。



中国砂漠植林「喜びの森」計画

地元の人々と協力して 緑化の喜びを広げる

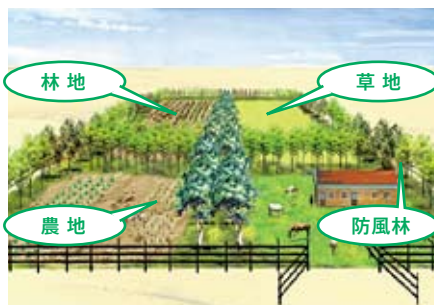
過剰な放牧や開墾などのため、急速に砂漠化が進んでいた中国・内蒙古自治区のホルチン沙漠。日本から最も近いこの砂漠をもとの緑豊かな大地に甦らせたい。地元の人々が自らの手で緑化に取り組み、自給的な生活を送れるようにしたい。そんな思いで2000年から始まった「喜びの森」計画。Hondaの従業員やOBのボランティアが、ホルチン沙漠を訪れ、地元の小中学生と交流しながら植林をすすめることで、緑化の大切さを一緒に考えてきました。

8年間で植えた木々は8万本を超え、最初の年に植えたポプラは7~8mにもなりました。開始以来、喜びの森の視察や問い合わせも年々増え続け、緑化活動の輪は近隣地域に大きく広がっています。

2007年、喜びの森は中国政府から73戸の地域住民に分割譲渡され、今後は地元の人々が自主管理しながら森林農場の完成をめざして緑化をすすめます。これに伴い、日本からのボランティアツアーは終了し、今後は資金援助などで側面から支援を継続していきます。



森林農場のイメージ図



●活動実績

年度	日本からのボランティアツアー		ツアーおよび現地での植林合計本数
	回数	参加人数	
2005	2回	69名	2,820本
2006	2回	69名	11,379本
2007	2回	106名	2,171本



地元中学生との植林

稀少生物の生息環境を守る

スプリングクリーク保全活動

ホンダカナダ・インコーポレーテッド/Honda Canada, Inc.

スプリングクリークは、カナダ・オンタリオ州アリントンにあるホンダカナダの生産工場敷地内を流れる小川です。この小川や周辺地域には、カワマスなど環境に敏感な川魚や鳥など、さまざまな生物が生息しているのですが、近年、ルリツグミのように外来種により生息環境が脅かされ、個体数が減少している種もあります。こうした稀少生物の生息環境を守るためにもスプリングクリーク周辺の自然保護が大切であると考え、2000年から保全活動を行っています。毎年5月の第1土曜日をスプリングクリーク・クリーンアップデーと定め、2007年には従業員とその家族75名がボランティアで参加し、小川周辺の清掃活動などを行いました。

活動をスタートして以来、スプリングクリークおよびその流域で、さまざまな環境保全・美化活動に取り組んでいます。小川周辺のゴミ拾いや、数百本の高木と数千本の低木を植えるなどの活動を行うことで、多種多様な生物の生息環境を築き、

土壌浸食を防ぐのに役立っています。ほかにも、ルリツグミの生息環境を保護するために、巣箱を設置し、ルリツグミの小径

をつくりました。ホンダカナダでは、今後も地域に根ざした環境保全活動に積極的に取り組んでいきます。



人とクルマと緑をつなぐ

Hondaツリーファンド

ホンダニュージーランド・リミテッド/Honda New Zealand Ltd.



「Hondaツリーファンド」は、Hondaの新車を1台販売するごとに、ニュージーランド原産の苗木10本分の資金を提供する植林基金です。2004年に設立し、森林の土壌の浸食と保水力低下の防止、河川や海岸の保護、公園の緑化を通して、生物の多様性に満ちた生態系を取り戻すのに役立てられています。ツリーファンドでは、2007年度は78,471本、これまでの4年間で約329,000本の苗木に相当する植林資金を提供しました。こうした資金は、ホンダニュージーランドが積み立てるだけではありません。Hondaのクルマを買っていただいたお客様からも、ツリー

ファンドへの寄付を募っています。さらに興味のある方には、ニュージーランドのHonda従業員と地域議会が共同で行う植林活動への参加をすすめるなど、少しずつ緑化活動の輪を広げています。

ツリーファンドの仕組み



新車1台を販売



苗木10本分の資金を提供

